

委員会 議事要旨

「第3回」環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会 議事要旨

- ・ 日 時：平成 31 年 3 月 6 日（水） 9:00～11:20
- ・ 場 所：東大阪都市清掃施設組合 第五工場 3階研修室
- ・ 出席者：環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会：12名
：事務局：東大阪都市清掃施設組合：8名
- ・ 議題
 - (1) 議事要旨の確認について
 - (2) 事業方式検討委員会の報告について
 - (3) 処理方式検討委員会の報告について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 - (5) その他
- ・ 議事要旨
 - (1) 議事要旨の確認について
第2回環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会の議事要旨について、内容確認を行った。
 - (2) 事業方式検討委員会の報告について
第2回環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会以降における事業方式検討委員会の検討・評価の流れとアンケート調査結果、定量的評価結果及び定性的評価結果、総合評価結果についての報告があった。
主な報告内容、意見内容及び質疑により決定した内容は以下のとおりである。
 - ・ 経済性の評価では、従来手法に対して P F I 等手法のうち B T O 方式ではコストが 0.54%増加するが、D B O 方式では 0.65%コストが削減されることが明らかになった。
 - ・ 定性的評価では、従来手法と P F I 等手法のいずれか一方を優先すべきという積極的結論には至らなかった。
 - ・ 定量的にも定性的にも従来手法、D B O 方式のいずれかが決定的に優れているとまでは判断し難いことから、第六工場については、従来手法、D B O 方式のいずれも採用可能との結論に至った。
 - ・ 運営を民間事業者任せの場合、倒産するリスクについて不安を感じるという意見や災害が発生した時の対応についても民間事業者では不安であり、組合による対応の方が安心であるという意見があった。また、視察した事例から、組合よりも民間事業者に運営を任せたいという意見もあった。
 - ・ 環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会においても、従来手法、D B O 方式のいずれかが決定的に優れているとまでは判断し難く、いずれも採用可能との結論に至った。

(3) 処理方式検討委員会の報告について

処理方式検討委員会の検討の流れとアンケート調査結果、処理方式の選定結果、灰の資源化についての検討結果の報告があった。

主な報告内容、意見内容及び質疑により決定した内容は以下のとおりである。

- ・ 第1回環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会で報告した内容からの変更点として、災害廃棄物見込量を再考したことにより、アンケート調査用の想定施設規模が350 t/日から300 t/日に変更になったこと、これに合せて、想定する建設費が下がったこと、なおかつ、今後のごみ減量を見込んだ時に、発電を行う施設としては効率的な運転がしやすくなることの報告があった。
- ・ 検討の結果、組合に最も適した処理方式は、安全で安定な処理が可能であり、技術管理面、維持管理面においても優れていると判断ができるものとして「ストーカ式焼却方式」を選定した。
- ・ これまで組合が整備及び運営を行ってきた可燃ごみ処理施設の処理方式が、全て「ストーカ式焼却方式」であり、組合職員の技術継承が容易であることも選定理由の一つとなった。
- ・ 焼却灰の資源化について、セメントリサイクルと山元還元を行っている事業者へのヒアリング結果の報告があり、その結果等から、焼却灰の資源化については、今後の社会情勢や技術動向を見極めながら、経済的かつ安定的な委託先の確保、効率的な搬送方法の確立に向けて、大阪湾広域臨海環境整備センターの動向もみながら、検討を行っていくことが適当である。
- ・ 環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会においても、組合に最も適した処理方式として、「ストーカ式焼却方式」を選定する。

(4) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール（案）について説明し、意見の聴取と質疑応答を行った。

- ・ 環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会については、3月27日に開催予定の第4回目をもって終了する。
- ・ 第4回環境にやさしいごみ処理施設を考える委員会は、提言書の提出について、承認を得ることを主な目的として開催する。

(5) その他

- ・ 事業の推進にあたり、地域住民との信頼関係の維持・発展に努めるとともに、長期的視点の下、環境に関する教育等の拠点としての役割の充実を求める意見があった。